

臨床研修第2期が各省でスタート

臨床研修第2期が始まりました

パイロット各省で改訂版教材を使用した研修が始まっています。プロジェクトオフィスには、各省保健局を經由し研修計画が届いています。

このうちビン・フック省総合病院では、研修開始に際し、看護部が中心となり、財務や総合計画課など関連部署に対する研修説明会を行いました。説明会では、各部署の研修指導者が講師を務め、参加者は説明と改訂版の新しい教材とを見合わせながら、真剣な眼差しで聞いていました。

同病院では、看護部の取り組みだけでなく、病院全体での看護師の役割やその重要性の理解が進むことが、臨床研修を持続可能なものにするための一つの鍵であると認識されており、病院独自の資金確保の取り組みも検討が進んでいます。また昨年度は、プリセプター研修をはじめ、プリセプター同士での振り返りや、管理者・指導者を交えた話し合いの場を設けるなどプリセプター育成に力を入れてきました。プリセプターからは新人看護師の評価が難しいとの声が多く聞かれており、今後は、新しい教材の自己・他者評価のスケールの活用や、そのプロセスを大切に、より正確で効果的な評価につながることを期待されています。

プロジェクトでは、こうした各病院での取り組みを通じた学びや教訓を共有していけるよう、今後各病院のモニタリングを強化していきます。



ビン・フック省総合病院での説明会



病院看護部、各病棟リーダーからの聞き取り（右端は大澤絵里短期専門家）

エンドライン調査の準備

根拠に基づく政策提言が国際的に求められている今日、本プロジェクトにおいても、臨床研修の全国展開に向け、研修プログラムの効果を検証するための調査を実施します。

調査はハノイ公衆衛生大学（Hanoi University of Public Health）のほか、国内の看護系大学の教員らと協働で、新人看護師のコンピテンシーレベルをアウトカムとして、研修前後の変化とパイロット省とそれ以外の省の変化の比較を行います。

また本調査のデータ収集には、Web調査紙を使用しています。このシステムを調査だけでなく各病院でのコンピテンシーアセスメントに用いることで、病院単位での研修のアウトカム評価が可能になると考えています。また看護管理者らが結果を分析し、研修プログラムの改善に役立てる仕組みづくりにもつながることが期待されます。



Pre-test（ハノイ市タン・ニャン病院）の説明を行うフェニアカ大学看護学部副学長ファン・ファン先生



（右）調査説明を行う同病院のチャム看護部長
（左）Web質問紙のQRコードを各自のスマートフォンで読み込む調査対象のプリセプターと新人看護師

プロジェクト新体制が始動

- 日本人専門家、ベトナム人スタッフの交代がありました。プロジェクト活動も残りあと1年、メンバー全員一丸となって頑張ります。
- ・堀井聡子（チーフアドバイザー/看護行政）2018年5月～
 - ・天池なほみ（看護教育/研修マネジメント）2019年4月～
 - ・デシルバ智美（業務調整）2016年5月～（更新）
 - ・チャン・ティ・トゥ・フン（ローカル統括・経理）2017年4月～（更新）
 - ・グエン・トゥ・ヒエン（中央行政コーディネーター）2016年6月～（更新）
 - ・グエン・ゴック・ラン（地方行政コーディネーター）2018年8月～